

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期平取町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道沙流郡平取町

3 地域再生計画の区域

北海道沙流郡平取町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、昭和 35 (1960) 年の 13,387 人をピークに人口減少が進んでおり、令和 2 (2020) 年 (国勢調査) では 4,776 人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和 12 (2030) 年には 3,881 人、令和 32 (2050) 年には 2,406 人まで減少する見込みとなっている。

年齢 3 区分別の人口動態をみると、年少人口 (0~14 歳) は減少傾向にあり、令和 2 (2020) 年には 553 人となる一方、老年人口 (65 歳以上) は増加の一途をたどり、令和 2 (2020) 年には 1,682 人 (高齢化率 35.2%) となっている。また、生産年齢人口 (15~64 歳) はピーク時から一貫して減少しており、令和 2 (2020) 年には 2,541 人 (構成比 53.2%) となっている。

本町の自然動態をみると、近年は出生数が年間 30 人から 50 人程度で推移する一方、死亡数は年間 80 人から 90 人前後となっており、出生数が死亡数を大きく下回る「自然減」の状態が継続し、その幅は年々拡大傾向にある。

社会動態をみると、進学や就職に伴う 10 歳代後半から 20 歳代の転出超過が最大の要因となり社会減が続いている。一方で、25 歳から 39 歳の生産年齢層においては、基幹産業である農業における外国人技能実習生や新規就農者等の受け入れにより転出超過が抑制されており、若年層の流出を一定程度補完する「社会的な流入構造」が見られる。

少子高齢化の進行は、地域コミュニティの維持や行政サービスの担い手不足に直

結しており、将来の出生数を支える世代が失われる「縮小スパイラル」に陥るリスクが高まっている。基幹産業である農業では「びらとりトマト」や「びらとり和牛」等のブランド産地を形成しているものの、資材価格の高騰や労働力不足が深刻な課題となっており、DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用したスマート農業の導入や生産性の向上が急務となっている。

また、本町の特徴であるアイヌ文化や豊かな自然環境等の資源を活かし、通過型観光から滞在型への転換を図るとともに、将来的な移住や応援者となる「関係人口」の拡大が求められている。

これらの課題に対応するため、若い世代が安心して子どもを産み育てられる質の高い生活環境の整備や、切れ目のない子育て支援を強化し、自然増への寄与につなげる。

また、基幹産業の収益力向上やDXの推進等により、若い世代が「平取町で働くこと」に誇りと将来の展望を持てる地域経済を構築するとともに、定住人口の減少を「関係人口」の拡大で補完することで、社会減に歯止めをかける。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- ・基本目標 1 強い経済（稼ぐ力の向上と産業振興）
- ・基本目標 2 豊かな生活環境（安心・安全の確保）
- ・基本目標 3 選ばれる地方（魅力ある地域づくりと多様性の創出）

【数値目標】

5-2の①に掲げる事業	KPI	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	新規参入者・農業後継者の確保・育成	夫婦型 4 人/年 単身型 0 人/年 後継者 0 人/年	夫婦型 4 人/年 単身型 1 人/年 後継者 1 人/年	基本目標 1
ア	びらとり温泉ゆから利用実績	93,000人/年	100,000人/年	基本目標 1
ア	二風谷ファミリーランド利用実績	6,800人/年	7,000人/年	基本目標 1

ア	幌尻（ポロシリ）岳 登山者数	2,000人/年	2,300人/年	基本目標 1
ア	主要イベント集客数	11,000人/年	13,000人/年	基本目標 1
ア	広域観光イベント参 加人数	2,500人	3,000人	基本目標 1
ア	起業化支援数	2件/年	2件/年	基本目標 1
ア	事業承継支援事業	0件/年(新規)	2件/年	基本目標 1
ア	企業誘致件数	0件	1件	基本目標 1
イ	分譲宅地の購入件数 (延べ)	6件	7件	基本目標 2
イ	ワンストップ窓口を 利用した移住者数	13人	20人	基本目標 2
イ	公営住宅建替事業の 整備	0戸	4棟18戸	基本目標 2
ウ	生徒確保（町内中 学卒業生による 平高入学率）	22%	30%	基本目標 3
ウ	北海道平取高等 学校生徒確保数	40人	60人	基本目標 3
ウ	博物館入館者数（ チセ群を含む）	26,329人	28,000人	基本目標 3
ウ	大学・大学間と地 域の連携事業	年2回	年2回	基本目標 3
ウ	沙流川歴史館年 間入館者数	22,418人	23,000人	基本目標 3
ウ	行政手続きオン ラインシステム 利用人数	—	500人	基本目標 3
ウ	地域コミュニテ ィ活動支援数	11団体	15団体	基本目標 3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第3期平取町まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 強い経済（稼ぐ力の向上と産業振興）事業
- イ 豊かな生活環境（安心・安全の確保）事業
- ウ 選ばれる地方（魅力ある地域づくりと多様性の創出）事業

② 事業の内容

ア 強い経済（稼ぐ力の向上と産業振興）事業

地域密着の産業である農林業や商工業等、様々な分野に魅力ある仕事
の場を創出する事業

【具体的な事業】

- ・ 魅力ある基幹産業（農業・林業）の育成
- ・ 観光振興と関係人口の拡大
- ・ 商工業の活性化と雇用の創出 等

イ 豊かな生活環境（安心・安全の確保）事業

安心して子どもを産み育てられる環境や、高齢者が健やかに暮らせる
持続可能な生活基盤を整備する事業

【具体的な事業】

- ・ 平取高等学校存続に向けた「地域共生型高校生寮」の整備
- ・ 切れ目のない子育て支援と保健・医療・福祉の充実
- ・ 持続可能な生活基盤（交通・住環境）の整備
- ・ 環境保全（ゼロカーボン）と防災対策の強化 等

ウ 選ばれる地方（魅力ある地域づくりと多様性の創出）事業

次代を担う教育環境の整備やDXの推進、多様な主体との協働により
選ばれる地域づくりを進める事業

【具体的な事業】

- ・ 平取高等学校の振興と「地域みらい留学」等の推進
- ・ 次代を担う教育環境の整備とアイヌ文化の継承

- ・行政サービスのデジタル化（DX）の推進
- ・移住・定住の促進と多様な主体による協働 等

※なお、詳細は第3期平取町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

1,500,000千円（2026年度～2030年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度、KPIの達成状況をまちづくり課がとりまとめて、庁内における施策内部評価及び10月までに外部委員会による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証結果については、本町公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2026年4月1日から2031年3月31日まで

6 計画期間

2026年4月1日から2031年3月31日まで